

学校教育目標	「ほっとな未来へ 3C」 ○ 自分なりの方法で新しい何かを創造していく力(creative)、未来へ向けて自分の思いや願いを実現する力を高めます。学習・物事を考え「もっとこうしたい」という思いをもって自分づくり(creative)に向かおうとする児童の育成に努めます。(知・体) ○ いろいろなことについて挑戦(challenge)していく力、学習・物事に向き合い「やってみよう」という成長の意欲を高めます。難しいことにも挑戦していく・自分の道を切り開いていこう(challenge)とする児童の育成に努めます。(知・体) ○ 「ほっと」するような集団、共に「Hot」な気持ちで高め合える集団、そして互いを認め合える集団づくりを目指します。(徳) 自分・他者・地域とかかわりあい(communication)を大切に、周りや自分の住んでいる地域への愛着心を育てていきます。(公・開)					
	創立 151 周年 児童生徒数: 291 人	学校長 宮生 和郎 主な関係校: 岩崎中学校	副校長 日野 る美	2 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 2

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力  「自分づくりに関する力」 「自分で判断し、行動したり挑戦したりできる子」 「他者と協働しながら創造する力」 「他者と関わり合いながら思いをかなえようとする子」	岩崎中 ブロック  岩崎小学校 桜台小学校 瀬戸ヶ谷小学校 保土ヶ谷小学校	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組  自ら生活を切り拓いていく児童・生徒  ・ブロック内での授業研究会や授業参観等を通して、各教科の系統性や授業形態の違いを踏まえた意見交換を行う。 ・児童・生徒レベルでの小中交流を活発化させ、相互理解を図る。 ・学力状況調査を通して学力傾向や分布などを分析し、学力向上への取組に生かしていく。 ・生徒指導専任・児童支援専任による情報交換
--	---	--

中期取組目標	・関わり合い、学び合う授業を通じて、他者と協働する力を育てます。また、体験豊かで探究的な学習活動を通じて、挑戦する態度・創造力を高めます。 ・特別支援教育を充実させることで、どの子どもにとっても居心地のよい環境・空間をつくり、個別最適な学びを進めます。 ・「ほっと子の時間」を柱とした教育課程の再構築と実践により、地域の自然と社会、人に学び、地域を愛し、地域に生きる子どもたちの素地を育てます。 ・家庭、地域、幼保中との連携・交流を深め、開かれた学校づくりと社会の要請や信頼に応えた学校づくりを進めます。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①教科担任制を行ったり授業の見合いをしたりして、子どもの実態を全教職員で共有し、支援や手立ての向上を目指していく。②重点研究では、教師それぞれが学びたいことを選び、よりよい授業の在り方について研究を進め、子どもたちの生きる力を育てていく。
担当	学力向上	
徳	道徳教育	①感染症対策を講じながら人権教室などの体験的な学習を取り入れる。 ②道徳の学習を通じて、人権尊重の意識を高め、他者との違いを受け入れ、規範意識を養う。 ③SDGs、3Rなどの学習を通して、実生活に生かしていけるような道徳の授業を展開する。
担当	道徳部	
体	健康教育	①縄跳びや球技の全校集会を委員会で計画し、それらを通して、通年、体力づくりに取り組む。 ②手洗いうがい、教室の換気など、委員会や6年生を中心に全校に発信し、日々の習慣や教室環境を意識して保健指導を行う。
担当	体育部	
公開	地域連携	①生活科・総合的な学習を軸に、地域の材の開発、活用をはかり、地域とのつながりを結ぶ。地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設けていく。 ②地域行事に学校としてよりかかわりを深め、地域の中の学校という意識を高める。
担当	学校運営	
いじめへの対応		①児童支援専任を中心に、きめ細かく各学級の状況を把握し、YPアセスメント等も活用しながら、学校全体でいじめの未然防止・早期発見、早期対応に努め、いじめの深刻化を防止する。今年度から5月に記名式のいじめアンケートも実施する。②担任一人で抱え込まないため、必要に応じていじめ防止対策委員会を開き、チームで対応する。③関係機関とも連携し、防犯教室やサイバー教室等を実施する。規範意識を育てるとともに、具体的ないじめのケースを知らせることで未然防止にもつなげる。いじめ防止プログラムを行い、子どもがいじめに真正面から向き合えるようにする。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①前年度に引き続き、打ち合わせや会議の精選、簡略化を行い、働き方改革につなげる。 ②校務システムや共有ドライブなどを活用し、情報共有を円滑かつ迅速に行えるようにする。 ③校内重点研究の実施方法について見直し、より実践的な研究を行う。
担当	人材育成	
特別支援教育		①前年度に引き続き、配慮を必要とする児童の様子を定期的に情報交換し、指導や支援の仕方を共有する。また、学年やブロック等、日常的に授業を観察し、教職員全体で児童理解を図っていく。②特別支援教育における、研修等を行う。③SCやSSWと連携し、支援が必要な児童について複数の目で見守る体制を整え必要に応じてケース会議等で支援方針を決めていく。
担当	特別支援	
読書活動		①前年度に引き続き、保護者ボランティアと協力して子どもたちの読書活動を推進する。 ②国語科を中心とした教科学習の際に、司書教諭とより連携をする。 ③朝読書の時間を確保して、読書習慣の定着を図る。
担当	図書部	
特別活動		①今年度も、係活動、委員会活動等学年に応じた活動に取り組み、自分の役目をやりきることを通して、自己肯定感や自尊感情を養う。 ②たてわり活動(ペア学年での活動、遠足等)や集会、儀式的行事等で異学年で集まって活動する場を設けて、関わりを増やしていく。
担当	特活部	
担当		